

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農村環境課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農村環境課長 青野 正 (課長補佐兼地域政策係長 奥田 邦清)	内線	3931 (3934)
------	-------	---------------------	---------------------------------------	----	----------------

事業種目	総合整備	事業名	事業区間	総事業費	約9億円
		農村振興総合整備統合補助事業	在田地区	内用地補償費	0.2億円
所在地			着工予定年度	完成予定年度	
加西市			H15	H20	
事業の目的			事業内容		
<p>地域資源をネットワークするウォーキングロードの整備を進め、居住環境の改善、都市住民との交流、地域農業の振興を推進するとともに農業農村の有する多面的機能の維持・保全を図る。また、農業生産基盤と生活環境基盤の総合的な整備を行い、定住条件の改善を図り、立地条件及び清涼な水環境等を活かした万願寺とうがらし、とうもろこしなどの畑作物を積極的に栽培するとともに、新たな地域特産物の開発を進める。</p> <p>事業主体：加西市</p>			<p>歩行者専用遊歩道：L = 9.6km [国：50%、県：0%、町・地元：50%] 生活環境基盤 (集落道L = 0.7km) [国：50%、県：6%、町・地元：44%] (消火栓1箇所、緑化施設5箇所) 農村交流基盤 (景観保全2箇所) [国：50%、県：0%、町・地元：50%] (コミュニティ施設1箇所) [国：50%、県：4%、町・地元：46%] 農業生産基盤 (用排水路L = 2.5km、農道L = 8.7km) [国：50%、県：12%、町・地元：38%]</p>		
評価視点					
(1)必要性	<p>在田地区は、適正な農林業の営みにより豊かな生活空間が保全されてきたが、過疎化、高齢化(22.6%)などにより農地の保全が難しくなり、多面的機能の低下が懸念される状況にある。このため、地域住民の参画による計画づくりが行われ、農用地、里山林をはじめとする自然資源の保全・利活用を図り、都市住民との交流を深めながら定住化を促進し、地域の持続的な発展、活性化を図ることが必要となっている。</p>				
(2)有効性・効率性	<p>生産基盤の整備により、地域性を活かした多様な営農体系が可能となり、高付加価値農業に向けた新たな展開が可能となる。また、ウォーキングロードの整備によって、地域住民の健康増進や都市農村交流による地域活性化が図られ、農業・農村の持つ多面的機能の維持・保全に寄与するものである。</p> <p>なお、投資効率は、1.39で事業効率は十分期待できる。</p>				
(3)環境適合性	<p>既存施設の改良、老朽施設の更新等の地形的改変を伴わない整備計画としている。地域産木材を利用するなど農村景観や自然環境に配慮した工法を用いる。また、再生材を積極的に利用する計画としている。</p>				
(4)優先性	<p>これまで加西市では、総合整備事業等を活用し、多様な農業農村整備が進められてきたが、在田地区は加西市で唯一農村の生活環境整備が行われていない地区であるため、地域住民にとって今回の整備の実現が熱望されている。</p> <p>また、基幹産業である農林業の継続により農林地を保全することは緊急課題であるとともに、自然環境の保全・利活用を視野に入れた地域整備を進める必要がある。</p>				